

の1つからあゆみます。お1号で来た「冬の枝葉」の追究は今回お1号に書いた。そのお1号には、ゴキブリが

うらばんだいあてび 14号 1999.3.3

凍りけれども楽しむ我が家。

はじめの冬(96の暮れ197)は、虫屋にある民宿の住み込みバイトで過ごした。部屋は日曜が空いていて、建物の外の除雪は家のヒッチマンとかがやっていた。トイレの水は三流だし、風呂も好きないように入れたし、虫口からは水もあふれもいつだって出てきた。

その冬の途中で、くろみの森引荘地のバイトが決まって、この家へ引越した。

私は生まれてからずっと実家で暮らしてきた。なにも考えず、水、電気、ガス、家をつかっていた。

はじめ長期間 実家以外で暮らしたのが、先の虫屋の民宿だった。でも私はある意味で「子供の立場」でいられた。

つまり、この家(勝手に「はながさ」と呼んでおいた)にきて、はじめ、自分で「家のこと」(洗濯と掃除の食卓の掃除など)をする立場になったのだ。

住んだ土地が雪国でなく、ただでさえ人より注意力の足りない、不器用な私と、うらばんだいにありながら、完全な雪国仕様になってきたこの家との出会いは、とても幸運なことだった。ただそれは私にとって、であり、この家にとっては サイアクなことなんだと思う。

だから、この家は私に山ほど文句を言いたいと思うが、私は、雪国に暮らすための基本をしっかりと教えてくれたこの家に深く感謝している。

私は、この家が、大好きである。

春〜秋、オニギルやシロヤギやアカマツに囲まれ、ホッリと遊んでいる家は静かで(外用スピーカーで流される、防災北塩原村公報もよくきこえるくらい)、アケラにドラミングがしたり、窓からミンサザイリスがみえたり、夏の夜、ペランダのまわりまでゲンジボタルが飛んできたりと、うらばんだいの自然を深々と楽しむことができる。

③冬期は1ヶ月を目安に4月にまとめて請求が来るので、
▶さて、春になると、11から電気を言われてくれるか、これもまた、トホホなるなあ。

ホムにおまはいい家だなあ、と思う。

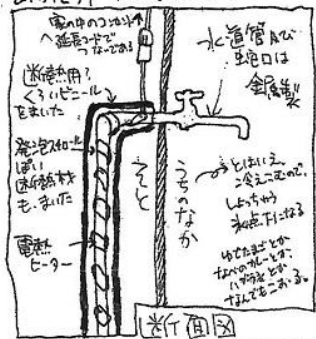
冬もそうなのだ。うらばんだいの自然=寒冷な気候(今年は-17℃が最低かな)と多雪さを11月までタンクでできる家なんである。そう、この家の楽しさは、冬になると、よ〜くわかるのである。真骨頂を發揮するとしても、いいまよがる。

はじめの冬(197)は3月から住んだので、水道管(金属製)を石皮製させただけだった。2回目の冬は、(197~198)トイレが三流(理由①水が凍って流れなくなると、理由②排水の方も凍り、使っただけ使って上までいぼいになった)、水道を止めてしまうと、水道管がまた石皮製するものもあるし、毎月虫口にお湯をかけないと虫口すら回らないので(もちろん水もどろろ)、水を出しっぱなしにしてやりすごした。

そう、水は止められないわけないのである!でも、そんな問題は発生して風呂場の排水口に漏水があらしく、その床の下が(2〜3畳くらいの面積)、春まで巨大な氷のかたまりになってしまったのだ。どうだ、そのせいで、風呂場の床がきんできた感じがしてきた。この年、会津若松の木屋さんが修理にきてくれた。

この家の水道管(外にでている)がむすびの状態なのをみて、「若松では凍結防止の電熱ヒーターをまいておくと、たいへんおぼろしい。(もちろん、近所の人にもおぼろしい、)

さて、3度目のこの冬は、「やはり、もうちょっと、便利に暮らしたいかなあ〜」という欲が出てきて、①トイレを使えるようにしたい ②水を止めても使えるようにしたい。凍らせないようにしたい(「そんな、おぼろしい」という声もある)(なあ、「苦勞してる」と言われることもあろう、私にはそんなことはあまりなく、この家におき、このうらばんだいの自然にふりまかされる非常事態もおもしろく、それに耐えて、便利なヒーターの暮らに変えてくつが身に付けられたいことか、また、めげやしないといふこと)——ということ、電気をつかうことにしました。



ホムヒーター1行くと左図に書いた材料はほつたに寄るわけである。1行くと左図に書いた材料はほつたに寄るわけである。2人で(なせかと降りの日にずいぶんはたか...)おぼろしい作業しました。ヒーターはカーモス、トイレ、狭くなった時だけ電気が三流のようになります。これを台所、風呂場、トイレ(は、風呂の方に移して)にやると、トイレの排水は土盤まで電熱ヒーターをまいてお湯をかけないかも、と言われ、一応まいてみました。

よし、完璧だ!! と思ったおぼろしいのはこの時分が正三。